

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 医学部	3
2. 医学系研究科	5

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 医学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 医学科においては、平成 28 年度から臨床実習を国際認証に対応できるよう 72 週に増加させた新カリキュラムを開始した。また、看護学科においては、令和元年度に、浜松医科大学独自の授業科目として「災害看護」を加え、「卒業研究」を必修化とした新カリキュラムを開始した。
- 浜松医科大学の PBL (Problem Based Learning) チュートリアル教育では、第 2 期中期目標期間から継続して、臨床実習中の医学科 5 年次生がチューターとなる屋根瓦方式を採用し、学生同士による学修を実施し、能動的学習能力、問題探求・問題解決能力の涵養に努めている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

2. 医学系研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 8)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

○ 平成 30 年度に静岡大学との共同教育課程（博士後期課程）光医工学共同専攻を設置した。単科の医科大学において、工学系の共同専攻を設置したことは、医学のみならず工学にも精通した光医学に関する専門人材を育成できる環境を整えることができ、特筆すべきことと言える。この専攻では、光・電子工学及び光医学の専門知識を修得するとともに、医学系の学生が工学系の研究施設を実地見学したり、工学系の学生が臨床の現場を実地見学したりするなど、医学と工学の融合による光医工学の学識と技術を修得させることに力を入れている。

また、光技術の医療への応用というニーズに応えるため、光医工学の専門的な知識及び技能を身につけ、光・電子工学と光医学の双方に精通している高度専門人材を輩出することを目指している。平成 30 年度から令和 2 年度まで、毎年度 3 名の定員を順調に確保し、光医工学分野の指導的役割を担う高度専門人材の育成を行っている。また、令和元年度からは、外国人留学生も受け入れ、微力ながら光医工学の国際的な発展にも貢献していると考えている。また、この光医工学共同専攻が目的とする人材養成を達成するために、専攻共通科目として、実践的かつ応用性の高い知識と能力を身に付けるための科目を配置し、基礎科目と専門科目により、養成する人材の基盤となる専門知識と技能、自律的学修能力と応用能力、豊かな人間性と高い倫理観及び国際社会・地域社会に対する貢献力を修得できるように編成している。

専攻共通科目としては、関連の法規範の知識などの専門科目よりも広い学術・技術領域において光医工学の研究者に求められる素養を修得する講義形式及び演習形式の科目のほか、研究インターンシップを設けている。

基礎科目としては、養成する人材に求められる高度な内容の専門科目を履修するための基盤となる知識と、医工学分野の全ての研究者が修得すべき倫理観を涵養する科目を設定している。学生は融合分野でのスムーズな知識修得のため、第 1 学期に選択必修科目のうち自らの従来の専門分野とは異なる分野の講義を選択して履修することが求められる。例えば、工学系の学習背景を持つ学生は、選択必修として初めに浜松医科大学が開講する医学系の基礎科目「医工学概論 A」を

受講し、医学系の知識を修得する。逆に、医学系の学習背景を持つ学生は、静岡大学が開講する光・電子工学の基礎科目「医工学概論B」を受講している。また、同学期には、必修科目の「医療研究概論」から、医療倫理と医療安全について学んでいる。

専門科目については、光・電子工学及び医学の基本的な知識の修得と医療現場のニーズの把握を目的とした講義形式の科目及び特別演習、特別研究から構成する。講義形式の科目については、主に新しい光技術での生体情報取得と評価の基本原理の構築と基盤となるデバイス開発を行う人材に求められる知識・能力を修得するための光医用センシング・画像科学科目と、イメージング、センシングを中心とした新しい光技術・基本デバイスの医療への実装と最適化を行う人材に求められる知識・能力を修得するための光医用デバイス・機器工学科目に分類して、光医工学分野における科目の位置付けを明確にしている。

- 博士課程（医学専攻）及び博士後期課程（光医工学共同専攻）では、一部の光医学関係等の科目において、光医学研究のリーダーを養成するため、企業や産業界（平成28年度から令和元年度まで延べ43社）からも講師を招へいし、授業内容を充実させている。また、一部光医学関係の科目については、学外からも受講できるよう広報を行っている。
- 博士後期課程（光医工学共同専攻）では、必修科目として、「光医工学特別演習」を設けている。具体的には入学時に医学生物学に関する知識を有していない学生（主に静岡大学学籍の工学系の学生）には、医療現場でのフィールドワークとして、手術室見学等を行っている。また、光・電子工学に関する知識を有していない学生（主に浜松医科大学学籍の医療・生物系の学生）には、関係教員の実験室見学等を行っている。
- 外国人留学生受入促進のため、外国人留学生に対する奨学金の給付（月10万円）制度を設け（平成28年度～）、入国前受験が可能なインターネット（Skype）を利用した入試（平成28年度～）を実施した結果、外国人留学生入学者数は平成28年度の3名から平成30年度の12名へと増加した。
- 光・電子工学と光医学の双方に精通している高度専門人材を輩出することを目指し、静岡大学との共同教育課程（博士後期課程）である本邦初の光医工学共同専攻を設置した（平成30年度）。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。